



ロータリーの縁

「^{いんねんかほう}因縁果報」

行田さくらロータリークラブ
第44代会長 川野健人

新しい元号である令和の年の始まりとなりました。クラブとしても、令和の始まりにふさわしい活動ができるよう努めたいと思います。

本年度のクラブテーマは、ロータリーの縁で「^{いんねんかほう}因縁果報」としました。仏教では「因・縁・果・報の順に物事は成立していく」と考えます。「因」とは直接原因です。植物の種を思い浮かべていただければよいでしょう。「縁」とは間接原因です。種をまく土や、まいた後に^や遣る水、日光などが「縁」になります。「因」という種は、「縁」を得ることによって成育し、「果」つまり実を結びます。「果」が生じると、それによって何らかの作用、例えばその実を食べるとか、その実を食べに虫が集まるといったことが生じます。これが「報」です。人は「因」という元々の素質に注目しがちです。種「因」をまいても、よい土と適切な温度と太陽の光と水と肥料「縁」がないと、芽は出ないし、出ても育たないという事です。つまり、悪い「因」を持っていても、悪い「縁」を与えずに善い「縁」を与えれば、悪い「因」の芽は出なくなるわけです。「因」も重要だが、「縁」次第で「果」や「報」は変化します。全て「縁」によって起きる。これが「縁起」です。もう少し「縁」の事を説明しますと、「縁＝条件」だと考えます。ロータリーと言う善い縁＝条件を与えると、良い果になり、因と縁と果に応じて、良い報いを受けます。条件(縁)さえ良くすれば、全てうまく行くと考えます。ロータリーの縁を大切にしたいと考えます。

本年度は、行田さくらロータリークラブより、新井啓介ガバナー補佐が誕生し、活躍される一年であります。この様な重要かつ多忙な年度の会長の役をいただいた事に対し、大きな責任を感じると共に精一杯務めさせて頂きたく、会員の皆様のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

長期目標(創立以来の継続目標)

私たち行田さくらロータリークラブは、日本の花「さくら」の愛護、保存、育成等の事業に協力し、地域の「さくら」の植樹や桜名所の保存活動を推進し、「さくら」を通じた内外の親善文化事業を実施します。

年次目標

1. 会員、会員の家族の参加しやすい例会を企画し、お互いの親睦をより深める
2. スマイル委員会での、ニコニコ報告を活発にする。
3. 国際ロータリー2570地区 新井啓介ガバナー補佐への全面的協力と支援

4. クラブ会報を定期的に提出する。
5. ロータリーの友の購読の向上するための対策をしたい。
6. 会員増強(純増5名)
7. RLI研修を活用し、ロータリー研修をする。 また、自己研磨として真観寺にて研修を行う。
8. マラソン講師による講習・講演による健康向上
9. さくらの愛護、保存、育成事業として桜の植樹を行い、クビアカツヤカミキリで被害のあった場所による市と提携による撲滅活動
10. 職業奉仕委員会として、企業訪問を行う。
11. ロータリー財団の活用と社会奉仕活動として、熊谷特別支援学校へのタブレットの贈呈を行い、アートで築こう地域の輪への協力。
12. 冠イベントの「行田さくらRC杯ミニバスケット大会」への支援を行う。
13. ものつくり大学と学園祭を通して交流し、ポリオ撲滅に関する寄付を行う。
14. 米山記念奨学に対する理解と交流
15. 他団体との連携、共同事業